

-Title	自殺予防と自死遺族支援の現状と課題実施結果：アンケート集計結果の概要（総合研究所 News：厚生労働科学研究費補助金（こころの健康科学事業補助金研究事業）による学術シンポジウム
Author(s)	聖学院大学総合研究所
Citation	聖学院大学総合研究所 Newsletter, Vol.19-5 : 25-28
URL	http://serve.seigakuin-univ.ac.jp/refs/modules/xoonips/detail.php?item_id=2362
Rights	

聖学院学術情報発信システム : SERVE

SEigakuin Repository for academic archiVE

日時 2009年12月11日(金)18:00～20:30

場所 東京福音会センター（日本キリスト教団銀座教会内）

【プログラム】

開会挨拶

阿久戸光晴（聖学院大学学長）＜代読＞

自殺予防と遺族支援のための基礎調査の実態から

竹島 正（国立精神神経センター精神保健研究所精神保健計画部長・自殺予防総合対策センター長）

遺族からの提言

田中幸子（全国自死遺族連絡会）ほか遺族の方々
政治的取り組みと意見

土肥 隆一（民主党 衆議院議員）

ディスカッション

指定討論者

三輪久美子（洗足学園短期大学講師）

岡島妙英（精神保健福祉士・僧侶）

斎藤幸光（司法書士・行政書士）

質疑応答

まとめ 司会：平山正実（聖学院大学大学院教授・総合研究所カウンセリングセンター長）

【後援】朝日新聞社

【結果の概要】

- ・参加者の人数は80名。内、アンケート回答者は38名。
- ・シンポジウムについて、「よい」が89%と高い評価を得た。

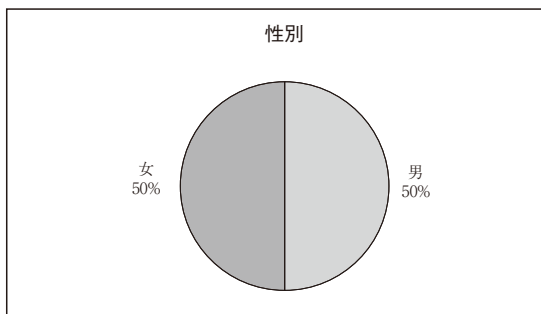
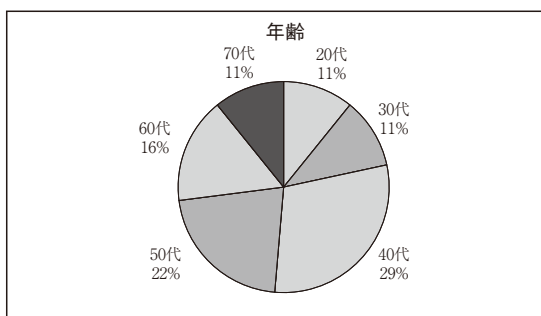
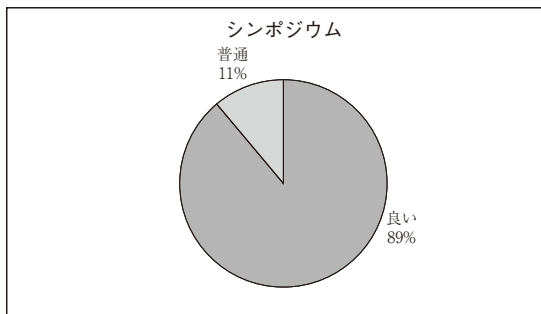
厚生労働科学研究費補助金（こころの健康科学事業補助金研究事業）による学術シンポジウム
自殺予防と自死遺族支援の現状と課題
実施結果—アンケート集計結果の概要—

日本の自殺者はこの10年間毎年3万人を超え、自殺率も先進国の中で際立って高い。この現状の中で、自殺未遂者とその家族、および自死者と自死遺族に対する偏見は強い。これらの方々に対する理解を深め、差別意識をなくすことを目的として、このシンポジウムを企画した。

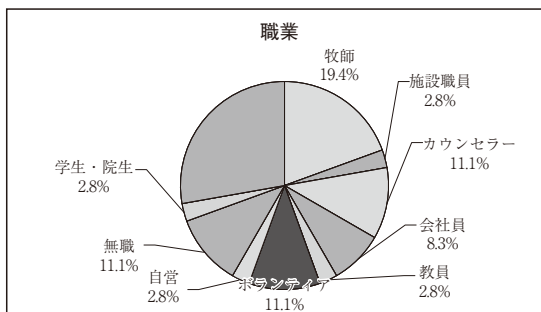


自殺予防と自死遺族への理解・支援を広めるために開催された

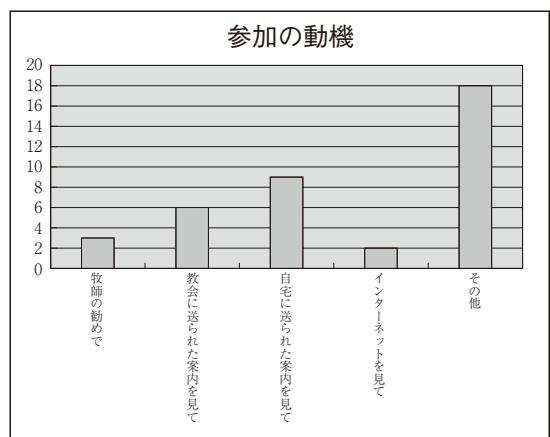
- ・自由意見として、「各方面からの意見が聞けて勉強になった」「問題の大きさに気づかされた」「遺族や現場で働く人の生の声が聞けてよかった」など。



*参加者の年齢は、40代50代で約半数を占めたが、各年齢層が集まった。性別は、男性、女性50%と半々だった。



*職業別には、「牧師」「カウンセラー」「会社員」など。「その他」の内容は、「NPO職員」「主婦」「介護福祉士」「盲人ヘルパー」「音楽家」など。



*参加の動機は「その他」の内容として、「大学関係者より」「講師からの紹介」「出席者からの紹介」など。

自由意見

- ・まだまだ今回のテーマに関する社会的理解は深くない。今回位の規模で繰り返す多くの場所や機会を持つことが、まだまだ必要だと考えます。自死遺族の方々がいつも出席される事は難しいと思いますが、このようなシンポジウムが啓発に役立ち、必要な法制上の措置にも進む力を結集していくことができると思います。不十分な政治の現状を考える時、土肥先生が出席されたことに敬意を表します。
- ・専門的な知識、情報、現状(活動されている方々)からの問題の提示はとても参考になりました。質問の時間が少なく残念でした。
- ・各方面からの現状や意見を聞くことができました。この点で意義深いものでした。一方、「学術シンポジウム」というには、もの足りないものを感じました。資料と研究に基づいた発題は、竹島氏のみでした。「遺族からの提言」については、「権利主張」や「社会への告発」のように聞こえ、場違いな印象を受けました。計画の主題になかった人選をしてほしいです。有意義な会でしたが、「寄せ集めの会」という感想。ひとつのメッセージも得られなかったことが残念でした。
- ・ディスカッションの時間が短すぎ、討論が深められていない。これは残念です。こうしたシンポジウムを企画した平山先生他の

スタッフの方々に感謝いたします。

- ・竹島氏、田中氏の時間が短かった。色々な立場の方の発言があり、非常に興味深く勉強になりました。参加されている方々の中でネットワークが広がるようになればと思います。
- ・私は親友を自死によって亡くしましたが、やっぱり私は私自身の幸せと私以外の人々の幸せを考えながら生きてゆきたいと思われました。自死から学ぶために…。
- ・自死遺族の方がこのような会で発表したり、誘われることさえ重荷になるとおっしゃってました。でも勇気を持って語られたことは素晴らしいと思います。遺族支援の会が遺族の方に負担をかけてしまう。一度傷ついた心のケアは本当に難しいと思いました。私たちキリスト者がなんとも思わなかった表現で、岡島妙英さんが非常に傷つかれたのではないかとこの事とても気になりました。今日のシンポジウム、感謝です。
- ・ご遺族の方のかかえる問題の大きさに気づかされました。今まではここに受ける悲しみや喪失、悲嘆にどのように関わっていったらいいのかという視点にのみ関心が向いていたように思います。
- ・弟を自死で亡くし、義妹を支えるための手がかりがほしいと思い参加しましたが、テーマが大きすぎて私の思いとは少し違いました。遺族から再び自死が出ないために祈り、共にいることを大切にしたいと思います。弟の死はこの世には病死としております。遺されたものにはそれでよかったと感じていますが、義妹の心は悲しみで一杯です。田中さんの悲しさは、愛しさであるとの言葉がとても心にひびき、嬉しかったです。
- ・甥が自殺した。友人の自慢だったご長男も自殺した。愛する友人が自殺した。それを発見したのは二人の子どもであった。身近に三人もの自殺者がいる。遺児は不登校になり入院している。会いに行ってほしいと言われているが、どのように接したらよいかわからない。今日の話では唯一あるがままを受容するだけ…なのだろう。その悲しみ、深い傷に心が痛む、キーワー

ドは「繋がる」という事のような気がした。繋がるために、遺族は一体どういう場を望んでいるのか。旅立った者もどういう場を必要としていたのか。そこを伺いたいと思った。社会全体で人々がbeing 力をつける必要があるとおっしゃっていますが、いかなる自分であろうとも、自分を肯定する力…なのですかね？土肥さんの話はちょっとずれている部分が多くて辛かったです。最後に平山先生の言葉からこのシンポジウムの目的意識を知りました。祈りつつ、知人に伝えたいと思います。

- ・各方面からの発言で視野が広がってありがたい。目標と手段→社会的強制—いじめ防止（家庭、職場、地域）、親・教師・上司の保護、支援義務化→ペナルティ（職場、学校は実名公開）を考えさせられた。
- ・なかなか会場を決めるのも難しかったと思いますが、水道橋のYMCAとか、壇のある大きなところを探していただくと良かったですね。あまりに自死に対する問題が大きすぎてしまって（多方面にわたるので）、この時間内におさめるは無理ですね。定期的に、問題を区切って、焦点を絞って扱うこのような機会を持って欲しいと思います。
- ・残念ながら、途中からの参加となりましたが、各々の方のご発言にとっても心が動かされました。ひとつ問題意識をもてたように思います。ありがとうございました。
- ・遺族の方々の生の声、そして現場で実際に働かれている方々の声が聞けて良かった。聞きたいことがたくさんあったが、質問できず残念でした。また、専門用語がかなりあり、あまり勉強していない私には、理解することが困難なところが多々あったので、もっと勉強しようと思いました。またたくさんの支援機関があることを知ることができただけでも本当に感謝でした。
- ・色々質問してきちんと答えさせて欲しかった。
- ・大変有益な企画、内容でした。質問を出させていただきました。
- ・パワーポイントの資料を配布してほしい。二次被害とは何か？
- ・とてもよい会に出席でき、学ぶことの多い会で

した。

- ・皆さんの話が聞けてよかった。
- ・遺族の方々、参加者、考え方を今一度目的を確認していただきたく、お願い申し上げます。
- ・これからも期待します。特に実際の遺族のケアについての情報が欲しいです。
- ・心からの訴えに感銘を受けました。正直な意見交換が益々必要であると考えています。
- ・突然の参加でしたが、あたたかく受け容れてくださり、ありがとうございました。
- ・時間が足りなかったのではないかな？